

平成 29 年 9 月 22 日

各 位

会 社 名 株式会社PKSHA Technology  
代表者名 代 表 取 締 役 上野山 勝也  
(コード番号：3993 東証マザーズ)  
問 合 せ 先 取 締 役 吉岡 哲俊  
経 営 管 理 本 部 長  
(TEL. 03-6801-6718)

### 東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、平成 29 年 9 月 22 日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、平成 29 年 9 月期（平成 28 年 10 月 1 日から平成 29 年 9 月 30 日まで）における当社グループの業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

#### 【連 結】

(単位：百万円、%)

項目	決算期	平成 29 年 9 月期 (予想)		平成 29 年 9 月期 第 3 四半期累計期間 (実績)		
		対売上高 比率	対前期 増減率		対売上高 比率	
売 上 高		890	100.0	93.7	704	100.0
営 業 利 益		361	40.6	128.9	370	52.5
経 常 利 益		342	38.5	117.4	367	52.2
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益		230	25.9	98.6	250	35.5
1 株 当 た り 当期（四半期）純利益		21 円 47 銭		23 円 43 銭		
1 株 当 た り 配 当 金		0 円 00 銭		—		

(注) 平成 28 年 9 月期においては、連結財務諸表を作成しておりませんので、下記に個別の業績を記載しております。

#### 【個 別】

(単位：百万円、%)

項目	決算期	平成 28 年 9 月期 (実績)	
		対売上高 比率	
売 上 高		459	100.0
営 業 利 益		157	34.3
経 常 利 益		157	34.3
当 期 純 利 益		116	25.3
1 株 当 た り 当 期 純 利 益		11 円 39 銭	
1 株 当 た り 配 当 金		0 円 00 銭	

(注) 1. 平成 28 年 9 月期（実績）及び平成 29 年 9 月期第 3 四半期累計期間（実績）の 1 株当たり当期（四半期）純利益は、期中平均発行済株式数により算出しております。

2. 平成 29 年 9 月期（予想）の 1 株当たり当期純利益は、公募株式数（2,074,000 株）を含めた期中平均発行済（予定）株式数により算出しております。

3. 当社は平成 29 年 6 月 7 日付で株式 1 株につき 1,000 株の株式分割を行っております。上記では、平成 28 年 9 月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して 1 株当たり当期純利益を算定しております。

## 【平成 29 年 9 月期業績予想の前提条件】

### 1. 当社グループ全体の見通し

当社グループは、機械学習／深層学習技術・自然言語処理技術を利用したアルゴリズムモジュール（※1）及びそれらを組み合わせたアルゴリズムソフトウェア（以下、これらを合わせて「アルゴリズムソフトウェア等」といいます）を複数開発しており、顧客企業のニーズに応じたアルゴリズムモジュール等の開発・提供を行っております。

当社グループの属する事業領域である人工知能（AI）領域（※2）においては、ICTの進化、深層学習技術等の新技術の研究が進んだことで注目を集め、平成 27 年度国内市場規模 1,500 億円が平成 32 年度には 1 兆 20 億円まで増加すると予想されており、市場環境は依然良好な状況が続いております（出所：株式会社富士キメラ総研「2016 人工知能ビジネス総調査」平成 28 年 12 月）。国内においては、人口が減少しており 2030 年には 1.16 億、2055 年には 0.8 億まで減少すると予想されております（出所：総務省統計局「日本の統計 2017 人口の推移と将来人口」）。

また、アルゴリズムが学習するデータ量も増加すると考えられ、国内の IoT 市場売上規模は平成 27 年の約 6.2 兆円から、平成 32 年には約 13.8 兆円に達すると予測されております（出所：IDC Japan 株式会社「国内 IoT 市場 テクノロジー別予測、2016 年～2020 年」）。様々な IoT 端末から収集されるデータはアルゴリズムソフトウェア等に入力され、アルゴリズムの品質は中長期に高まり続ける構造を持ち、社会のアルゴリズムソフトウェア等の活用ニーズはより一層高まると考えております。

こうした環境の中で、当社は、新たなプロダクトの開発や優秀な人材の確保を進める等積極的な投資を行う等、新規案件の獲得に努めており、平成 29 年 9 月期の当社グループの業績は、売上高 890 百万円（前期比 93.7%増）、営業利益 361 百万円（前期比 128.9%増）、経常利益 342 百万円（前期比 117.4%増）、親会社株主に帰属する当期純利益 230 百万円（前期比 98.6%増）を見込んでおります。

なお、当社は平成 29 年 9 月期より連結決算を開始しておりますので、平成 28 年 9 月期の当社の単体決算との対比で記載をしております。

※1. 「アルゴリズム」とは、コンピューター上における課題解決の手順・解き方をいい、「モジュール」とは、汎用性の高い複数のプログラムを再利用可能な形でひとまとまりにしたものであり、ソフトウェアを構成する個々の構成要素（機能ごとのプログラムのまとまり）をいいます。当社において「アルゴリズムモジュール」とは、アルゴリズムを再利用可能な形でプログラムとしてひとまとまりにしたものと定義しております。

※2. AI（人工知能）とは、Artificial Intelligence の略であり、学習・推論・認識・判断等の人間の脳が行っている作業をコンピューターで模倣したシステムであります。

### 2. 業績予想の前提条件

当社は平成 29 年 5 月 19 日の取締役会で予算修正を決議しており、当社グループの業績予想は、平成 28 年 10 月乃至平成 29 年 4 月までは実績値、平成 29 年 5 月乃至平成 29 年 9 月までは予想値を使用して算出しております。

#### (1) 売上高

当社グループはアルゴリズムライセンス事業の単一セグメントであります。当社グループは、冒頭に記載のとおり、機械学習／深層学習技術・自然言語処理技術を利用したアルゴリズムソフトウェア等を複数開発しており、顧客企業のニーズに応じたアルゴリズムソフトウェア等の開発・提供を行っております。アルゴリズムソフトウェア等の提供に係る収益構造は、アルゴリズムソフトウェア等を顧客企業のソフトウェアまたはハードウェアに組み込む際の初期設定等に係る月額の内シヤルフィーと、初期設定後（顧客企業への導入後）のサービス利用料及び保守運用等に係る月額の内シヤルフィーから構成されております。

当該平成 29 年 9 月期業績予想の具体的な策定方法は以下のとおりです。なお、期首予算策定時においては、契約締結済（確定案件）又は契約交渉中のもの（見込み案件）に加えて、新規受注案件数・単価等を過去の実績等を勘案し個別案件毎に積み上げて策定しておりますが、平成 29 年 5 月 19 日の取締役会における予算修正決議においては、期末までの残りの期間が短いこと等も勘案し、契約締結済（確定案件）又は契約交渉中のもの（見込み案件）に限定して計上しており、クライアントとの折衝が進んでいない新規案件については計上しておりません。

#### ① 確定案件

既にクライアントと契約締結済であり、売上高が発生しているものは、当該契約（金額

及び契約期間等)に基づき、案件毎の契約金額の実額を予算として計上しております。なお、案件の途中解約については、これまで契約期間途中で途中解約が行われた実績がないことから、予算上も見込んでおりません。

その結果、確定案件に係わる売上高は、アルゴリズムモジュールに係る売上高 442 百万円、アルゴリズムソフトウェアに係る売上高は 375 百万円の計 817 百万円を見込んでおります。

## ② 見込み案件

クライアントとの契約が未締結又は契約更新予定の案件は、各案件の交渉等の進捗を勘案し、交渉の進捗ステージ(見積書交付済、契約締結・更新手続き中等)、確度等を勘案した上で売上高を計上しております。なお、予算策定時点で具体的な交渉等に至っていない新規案件は予算上計上しておりません。

その結果、見込み案件に係わる売上高は、アルゴリズムモジュールに係る売上高 44 百万円、アルゴリズムソフトウェアに係る売上高は 29 百万円の計 73 百万円を見込んでおります。

以上の結果、平成 29 年 9 月期の売上高については、継続取引先の増加等によりアルゴリズムモジュールに係る売上高 486 百万円(前期比 24.8%増)、新規アルゴリズムソフトウェアのリリース等によりアルゴリズムソフトウェアに係る売上高 404 百万円(前期比 477.3%増)の計 890 百万円(前期比 93.7%増)を見込んでおります。

平成 29 年 9 月期第 3 四半期までの業績進捗につきましては、継続取引先の増加等によりアルゴリズムモジュールに係る売上高 393 百万円、新規アルゴリズムソフトウェアのリリース等によりアルゴリズムソフトウェアに係る売上高 311 百万円の計 704 百万円となりました。

## (2) 売上原価、売上総利益

全体として、売上原価は前期比 139 百万円増(前期比 72.7%増)の 332 百万円を見込んでおります。

当社グループの売上原価は、主にエンジニアに係る人件費、通信費が該当します。

エンジニアに係る人件費は、開発計画等を基に作成した人員計画におけるエンジニアの人員数及び外部エンジニアへの外注費を基に算出しております。社内エンジニアに係る人件費は前期と比して 14 名増加することを前提として 178 百万円(前期比 79.7%増/第 3 四半期累計期間実績 118 百万円)を見込んでおります。外部エンジニアへの外注費に関しては、新規受注に伴う案件数増加の影響等により増加することを前提として、140 百万円(前期比 100.8%増/第 3 四半期累計期間実績 92 百万円)を見込んでおります。通信費は、外部サーバの利用料であり、当社グループのクライアント数・データ通信料の増加に伴い、過去の実績等を勘案し 92 百万円(前期比 125.8%増)を見込んでおります。その他経費については、前期実績等をベースに勘定科目別に積み上げた数値となっております。

なお、これら売上原価の計画から、アルゴリズムソフトウェア開発に伴うソフトウェア振替分や、広告画像の自動生成や音声認識に関する研究開発費分について他勘定振替高として 116 百万円(前期比 159.1%増)を控除しております。

以上の結果、平成 29 年 9 月期の売上総利益は、558 百万円(前期比 108.9%増)を見込んでおります。

## (3) 販売費及び一般管理費、営業利益

全体として、販売費及び一般管理費は前期比 87 百万円増(前期比 80.0%増)の 196 百万円を見込んでおり、前期実績を基とし、個別費用を勘定科目別に積み上げるとともに、事業拡大に伴う人件費等につきましては人員計画に基づき算出しております。

当社グループの販売費及び一般管理費における主な費用項目は、給与手当・福利厚生費・採用教育費等の人件費であり、内部管理体制の強化等のため 1 名増を計画しており 50 百万円(前期比 145.5%増/第 3 四半期累計期間実績 31 百万円)を見込んでおります。

その他、監査報酬等の増額を勘案した支払報酬 23 百万円(前期比 12.2%増)、平成 29 年 9 月期より外形標準課税適用となること及び平成 29 年 9 月期第 4 四半期会計期間において新規株式上場に伴う増資等による租税公課 29 百万円(前期比 1,740.0%増)を見込んでおります。

以上の結果、平成 29 年 9 月期の営業利益は、361 百万円(前期比 128.9%増)を見込んでおります。

(4) 営業外損益、経常利益

営業外収益・費用については、実額で見込める項目は実額計上、見込めないものは過去実績等を勘案して計画を作成しております。営業外収益については受取利息0百万円(1千円)を見込んでおり、営業外費用については平成29年9月期第4四半期会計期間において新規株式上場に伴い株式公開費用10百万円及び新株発行費償却7百万円により、合計18百万円を見込んでおります。

以上の結果、平成29年9月期の経常利益は、342百万円(前期比117.4%増)を見込んでおります。

(5) 特別損益、親会社株主に帰属する当期純利益

平成29年9月期においては、特別損益は見込んでおりません。

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は230百万円(前期比98.6%増)を見込んでおります。

**【業績予想に関するご留意事項】**

本資料に記載されている当社グループの業績予想は、本資料の策定時点において入手可能な情報による判断及び仮定を前提にしており、実際の業績は様々な要因によって異なる可能性があります。

以上

平成29年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年9月22日

上場会社名 株式会社PKSHA Technology 上場取引所 東  
 コード番号 3993 URL http:// https://pkshatech.com/  
 代表者(役職名) 代表取締役 (氏名) 上野山 勝也  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 経営管理本部長 (氏名) 吉岡 哲俊 (TEL) 03(6801)6718  
 四半期報告書提出予定日 — 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年9月期第3四半期の連結業績(平成28年10月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年9月期第3四半期	704	-	370	-	367	-	250	-
28年9月期第3四半期	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 包括利益 29年9月期第3四半期 250百万円(-%) 28年9月期第3四半期 -百万円(-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年9月期第3四半期	23 43	-
28年9月期第3四半期	-	-

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

2. 当第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成28年9月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年9月期第3四半期	1,136	909	79.8
28年9月期	-	-	-

(参考) 自己資本 29年9月期第3四半期 906百万円 28年9月期 -百万円

(注) 当第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、平成28年9月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年9月期	-	0.00	-	0.00	0.00
29年9月期	-	0.00	-	-	-
29年9月期(予想)	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年9月期の連結業績予想(平成28年10月1日～平成29年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	890	-	361	-	342	-	230	-	21 47	

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 平成28年9月期より連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率は記載しておりません。
3. 平成29年9月期（予想）の1株当たり当期純利益は、公募株式数（2,074,000株）を含めた期中平均発行済（予定）株式数により算出しております。
4. 当社は、平成29年6月7日付で株式1株につき1,000株の株式分割を行っておりますが、当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益を算定しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の移動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年9月期3Q	10,705,000株	28年9月期	10,527株
② 期末自己株式数	29年9月期3Q	-株	28年9月期	-株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年9月期3Q	10,685,440株	28年9月期3Q	-株

(注) 当社は、平成28年9月期第3四半期について、四半期財務諸表を作成していないため、「期中平均株式数」を記載しておりません。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P2.「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続いております。雇用・所得環境の改善が続くなかで、回復基調で推移したものの、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に依然不透明な状況が続いております。

当社グループの属する事業領域である人工知能（AI）領域においては、市場環境は依然良好な状況が続いております。

こうした環境の中で、当社グループは、既存案件の積み上げ及び新規案件の獲得を推し進めると共に、新たなアルゴリズムソフトウェアの開発や優秀な人材の確保を進めるなど積極的な投資を行ってまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は704,648千円、営業利益370,124千円、経常利益

367,930千円、親会社株主に帰属する四半期純利益250,333千円となりました。

なお、当社グループはアルゴリズムライセンス事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の状況

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は975,101千円となりました。主な内訳は現金及び預金824,776千円、売掛金132,927千円であります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は160,575千円となりました。主な内訳は有形固定資産24,348千円、無形固定資産99,274千円であります。

② 負債の状況

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は226,326千円となりました。主な内訳は買掛金21,521千円、未払法人税等110,518千円であります。

③ 純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は909,901千円となりました。主な内訳は資本金204,650千円、資本剰余金203,650千円、利益剰余金498,210千円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本日開示致しました「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。なお、業績予想は、当社が現在入手できる情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。



2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

重要な特定会社ではありませんが、当第1四半期連結会計期間において、(株)BEDOREを設立したため、連結子会社に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません

3. 四半期連結財務諸表  
(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	824,776
売掛金	132,927
その他	18,150
貸倒引当金	△752
流動資産合計	975,101
固定資産	
有形固定資産	24,348
無形固定資産	99,274
投資その他の資産	36,952
固定資産合計	160,575
繰延資産	678
資産合計	1,136,355

(単位：千円)

当第3四半期連結会計期間  
(平成29年6月30日)

負債の部	
流動負債	
買掛金	21,521
未払法人税等	110,518
その他	94,286
流動負債合計	226,326
固定負債	
その他	127
固定負債合計	127
負債合計	226,453
純資産の部	
株主資本	
資本金	204,650
資本剰余金	203,650
利益剰余金	498,210
株主資本合計	906,510
その他の包括利益累計額	
その他有価証券評価差額金	288
その他の包括利益累計額合計	288
新株予約権	3,102
純資産合計	909,901
負債純資産合計	1,136,355

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結包括利益計算書

## 第 3 四半期連結累計期間

	(単位：千円)
	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成 28 年 10 月 1 日 至 平成 29 年 6 月 30 日)
売上高	704,648
売上原価	221,339
売上総利益	483,309
販売費及び一般管理費	113,184
営業利益	370,124
営業外収益	
受取利息	0
営業外収益合計	0
営業外費用	
株式交付費償却	193
株式公開費用	2,000
営業外費用合計	2,193
経常利益	367,930
税金等調整前四半期純利益	367,930
法人税、住民税及び事業税	124,852
法人税等調整額	△7,255
法人税等合計	117,596
四半期純利益	250,333
親会社株主に帰属する四半期純利益	250,333

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年10月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	250,333
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	356
その他の包括利益合計	356
四半期包括利益	250,690
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	250,690

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成28年10月31日付で、株式会社NTTドコモ及び伊藤忠商事株式会社から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ124,600千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が204,650千円、資本剰余金が203,650千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期連結累計期間(自平成28年10月1日 至 平成29年6月30日)

当社グループは、アルゴリズムライセンス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。